

子供たちが地域の祭りで伝統行事を再現

今泉賽の河原例大祭で「虫送り」披露

今泉地区の伝統行事「今泉賽の河原例大祭(実行委員長・江良浩二)」が6月23日(日)に、同地区の賽の河原公園で開催されました。48回目の開催を迎えた今年は、同地区で途絶えていた伝統行事「虫送り」を薄市小学校児童らが披露しました。薄市小学校では放課後教室で太刀振りの練習や太刀の装飾などに時間を費やし、伝統芸能の復活に一役買いました。そのほかの、ステージ発表では、薄市こども園によるお遊戯や中里中学校吹奏楽部の演奏、よさこいチーム「夢幻天舞」演舞などがあり、盛り上がりを見せていました。



給食の野菜を自分たちの手で

子供たちが種植え体験

「おおきくなあれ！」は地産地消の推進や農業体験を通して食の大切さや、食べ物ができるまでの工程を学ぶことを目的として実施している農業体験学習です。今年度は、中里小学校1年生、薄市小学校3年生、小泊小学校1年生・4年生、小泊中学校2年生の4校5学年で実施しています。それぞれ、にんじん、ねぎ、大根を育てます。7月に子供たちが汗をかきながらひとつひとつ「大きくなあれ」と植えました。成長の早い大根は1週間後には発芽していました。育てた野菜は、給食の材料として使われ、管内全ての学校へ提供されます。

中泊町内の企業もブース出展

青森・秋田県境画定400周年記念イベント

秋田県八峰町で7月13日(土)・14日(日)に、「秋田へ行こう！×津軽へ行こう！『八峰・深浦国境400年まつり』」が開催されました。このイベントに、中泊町から合同会社ツリーワーク(代表取締役・佐々木嘉幸)がブース出展し、忌避剤「熊にげる」など同社製品の販売を行いました。

佐々木さんはイベントでのPR効果に触れながら「多くの人が足を止め、興味を持って見て貰えたことはとてもうれしい」と話しました。



お手玉やヨーヨー釣りを楽しむ

下前地区で「リターンワールド」

下前地区の3つの母親クラブが、7月28日(日)にすくすくしたまえ館でリターンワールドを開催しました。この催しは、母親クラブの会員が地域の子どもたちに昔の遊びを教えたり、食事を楽しんだりしながら交流するものです。この日は地元の親子を中心に約50人が足を運び、お手玉、おはじき、ヨーヨー釣り、ハンカチ落とし、ボール転がしなどを楽しみました。その後、参加者全員でやさそばやデザートを食べながら、世代間の交流を深めました。参加した子どもたちは「体を使った遊びで難しかったけど面白かった。お手玉を練習してできるようになりたい」と楽しそうに話していました。



青公大と連携協定を締結

町の観光ビジョン策定を目指して

中泊町と青森公立大学(香取薫学長)は7月30日(火)、同大学内で連携協定を結びました。当町が教育機関と協定を締結するのは、平成27年の青森明の星短期大学に続き、2件目となります。

今年度は町の知名度向上と訪れる人を増やすための計画「観光ビジョン」の策定を目指して、教員や学生が町に足を運び、地域資源の掘り起こしや活用方法を探ります。また、今年10月に青森市内で開催を予定している同大主催のイベントで、学生が中泊町の特産品販売を行います。

式典では、香取学長が「中泊町の皆さんと一緒に課題解決に取り組みたい」、濱舘町長が「新たな観光資源を見つけ、磨き上げるために力を貸していただきたい」と、連携に向けた思いを語りました。

青森公立大学と中泊町との連携協



商店街の復活を願って

営業所開業記念にLED灯具を寄贈

中里地域の商店街(派立通り)の復活を願い、街を明るくしたいと、街路灯用にLED電球製造灯具80個とその交換費用の寄附申出が、株式会社アビスジャパン中泊営業所(所長・塚本山和)からありました。

7月30日(火)には、塚本所長から目録が濱舘町長に手渡されました。

灯具の交換は同日から着手され、8月11日(日)に中里地域で開催のなかどまりまつり前に作業が完了しました。

「風」の力で活性化の第一歩に

十三湖風力発電所 竣工式

津軽風力発電(本社 茨城県・日立キャピタルのグループ会社)が中泊町、五所川原市の十三湖沿岸に建設した「十三湖風力発電所」が完成し、7月31日に田茂木地区で竣工式が行われました。竣工式には、中泊町、五所川原市の関係者も含め約100人が出席し、同社の三上伸代表は「この地域の風を利用して、地域への還元につながると思う」と話しました。2017年4月から着工した同発電所は15基の風車があり、年間予想発電量は一般家庭にして約2万4000世帯分に相当します。



平和と町の発展を誓う

中泊町戦没者追悼式

町戦没者追悼式が、8月22日(木)に中央公民館で行われました。国歌斉唱、黙祷に続いて、遺族会が主催の慰霊祭が行われ、各代表者が玉串を捧げました。濱舘町長は「戦没者のご冥福とご遺族の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます」と式辞を述べました。また、県知事、県遺族会、中里遺族会代表が追悼の辞を述べました。最後に、参列者全員が慰霊碑に菊の花を献花し、祈りを捧げていました。



実りの収穫期を迎える

水田と機械を活用したタマネギ栽培実証実験

水田を利用した機械によるタマネギ栽培の実証試験を、田茂木地区の坂本譲太さんが所有するほ場で、この春から実施してきました。この実証試験はタマネギ栽培における機械作業の検証を行うもので、4月下旬に定植したタマネギが7月下旬に収穫期を迎えました。収穫作業では「掘り起こし」と「拾い上げ」を機械で行い、約30アールの面積を「掘り起こし」が1日、「拾い上げ」を2日と、非常にスムーズに終わることができました。また、収穫されたタマネギは大小様々でしたが10cm以上の大きいサイズも多く、需要に十分見合った品質で県内の取引先に出荷されています。今回行った実証試験の結果をもとに、収益性を十分に検証しタマネギ栽培普及の検討を行います。



活動を盛り上げ、結束力を高めるために

中里高校応援会がチームTシャツ寄贈

中里高校応援会(会長・小寺也人)が8月1日(木)に「Nakasato」のデザインTシャツ100枚を寄贈しました。贈呈式で、小寺会長は「会員をはじめ町内の企業からも寄付を募った。行事だけでなく普段から着用して、中里高校のPRをしてほしい」と話しました。

小寺会長からTシャツを受け取った同校生徒会副会長の山田麗奈さんは、「このTシャツを着て、いろいろな行事に参加したい」と抱負を語りました。同校の大瀬雅生校長は「学校と生徒のことを思って作っていただいたことはありがたい」と感謝の言葉を述べました。



るな行事に参加したい」と抱負を語りました。同校の大瀬雅生校長は「学校と生徒のことを思って作っていただいたことはありがたい」と感謝の言葉を述べました。

旧友との再会を喜ぶ

令和元年度 中泊町成人式

今年度二十歳を迎える新成人を祝おうと、8月15日(木)に総合文化センター「パルナス」で成人式が行われ、99人の対象者のうち72人が集いました。米塚教育長は式辞で「中泊町で生まれ育ったことを誇りに、最高の顔をつくってほしい」と話しました。新成人を代表して竹谷雅さんが「出会った全ての人に感謝し、立派な大人になりたいと」誓いの言葉を述べました。式の後半には、恩師からのビデオメッセージ上映と、著名な歌手のバックダンサーや振り付けを手掛ける大石城治さん(小泊地域出身)のダンススクールがありました。レッスン前には、大舞台で活躍する大石さんが、思いがけない出来事からダンスの世界へ足を踏み入れることとなったきっかけの話があり、新成人たちは真剣な眼差しを向けながら聴き入っていました。

